

## 磐梯山の火山活動解説資料（平成30年4月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

5月8日から9日（期間外）にかけて火山性地震が増加し、8日の日回数は57回となりました。地震活動以外の火山活動に特段の変化は認められません。

山体北側火口や沼ノ平付近では、噴気や火山ガスの噴出等が見られます。ヘルメットの携行や立ち入り規制等地元自治体の示す指示に従ってください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図4-①）

剣ヶ峯に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図3、図4-②～⑥、図5、図6）

火山性地震は少ない状態で経過しましたが、5月8日から9日（期間外）にかけて火山性地震が一時的に増加し、日回数は8日57回、9日6回となりました。震源は山頂付近の深さ1kmから2km付近と推定されます。最大の地震は9日01時23分頃に発生した地震で、<sup>ほんなん</sup>磐南観測点で最大振幅（上下成分）は $19.3\mu\text{m/s}$ でした。磐梯山では、これまでも同じ所で一時的な地震回数の増加がみられ、2017年8月27日には日回数71回を観測しています。

低周波地震<sup>1)</sup>及び火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年5月分）は平成30年6月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



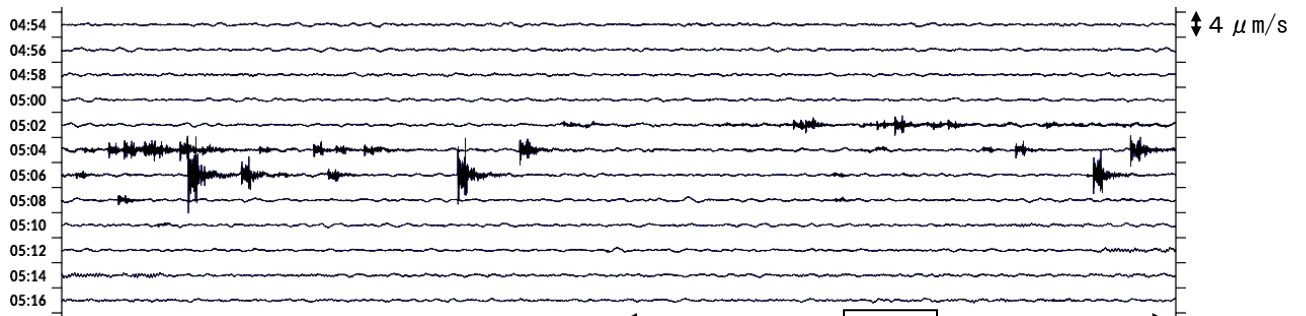
図 1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状態  
(4月11日)

- ・ 剣ヶ峰（山頂の北約 7 km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは 30m です。

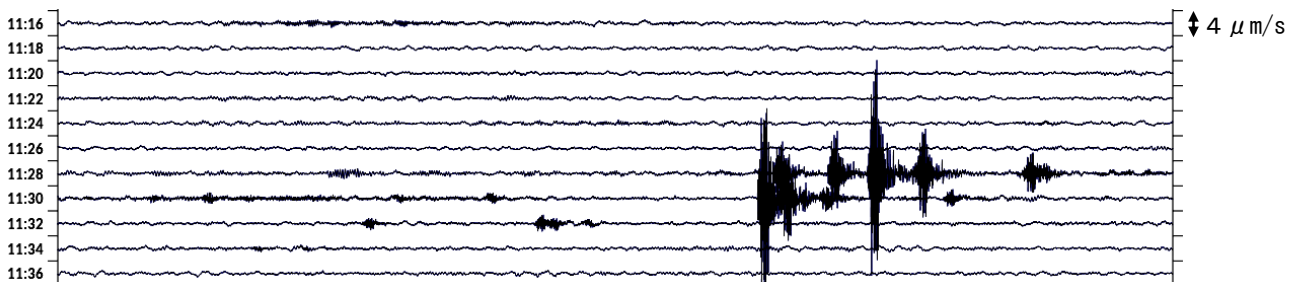


図 2 磐梯山 沼ノ平周辺の状態（4月11日）

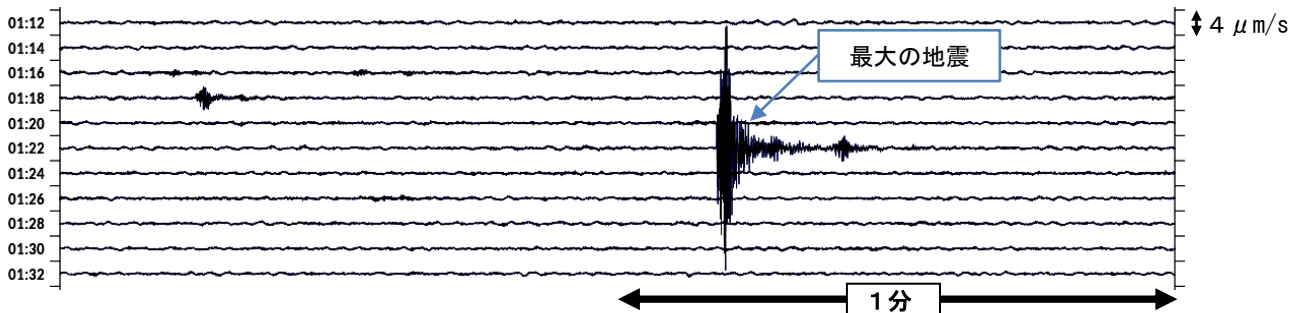
- ・ 櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約 600m）に設置している監視カメラの映像です。



(2018年5月8日04時54分~05時18分)



(2018年5月8日11時16分~11時38分)



(2018年5月9日01時12分~01時34分)

図 3 磐梯山 火山性地震の発生状況（磐南観測点 上下動）

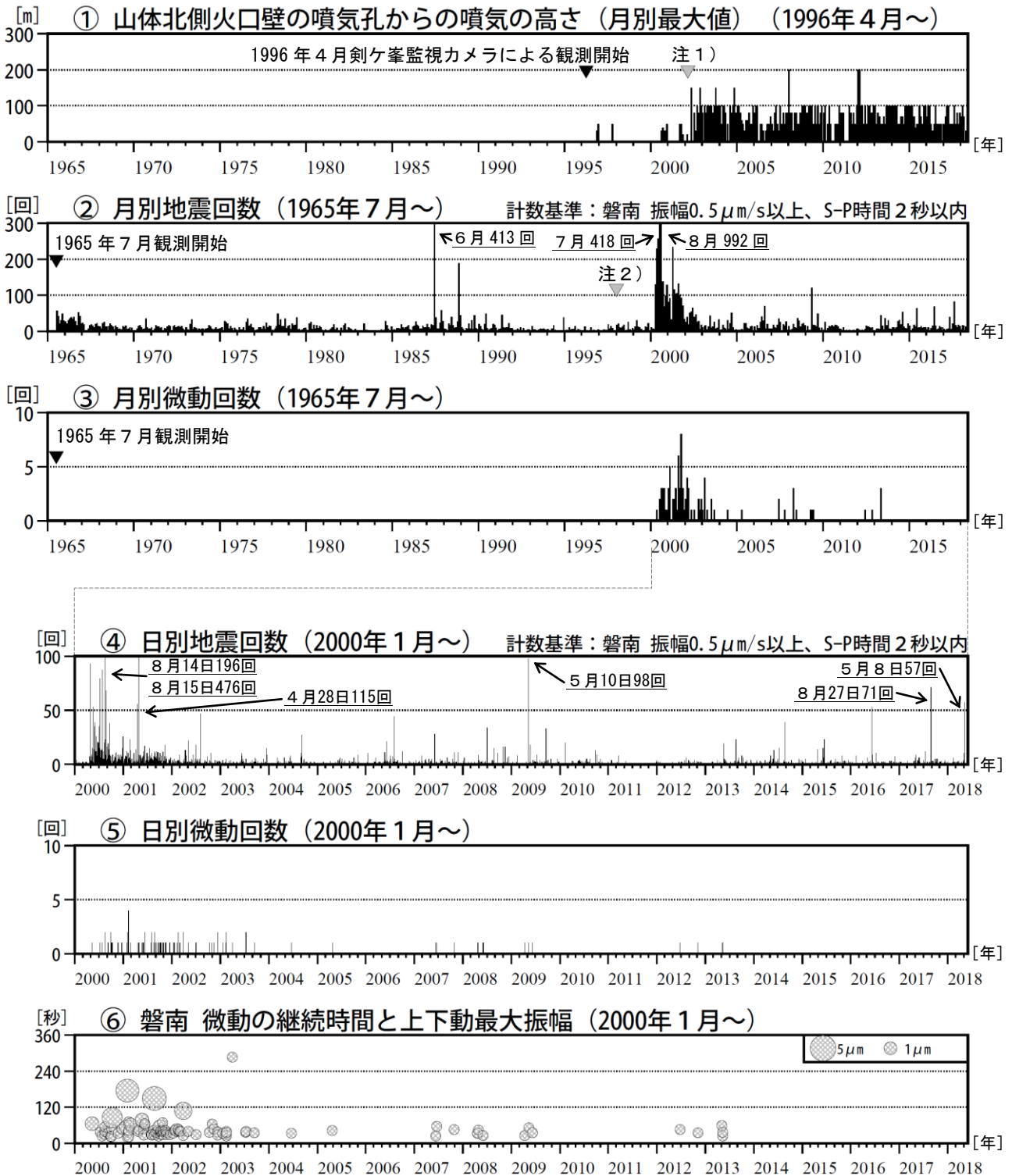


図4 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2018年5月9日）

- ・①注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

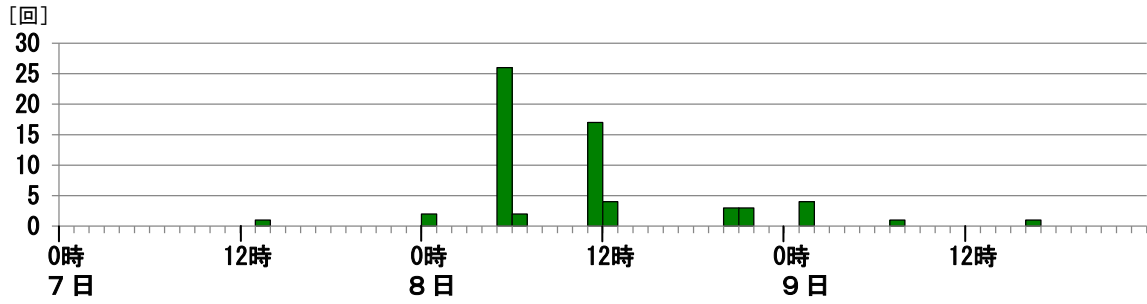


図5 磐梯山 時別地震回数（2018年5月7日～5月9日）  
 ・8日から9日にかけて火山性地震が一時的に増加しました。

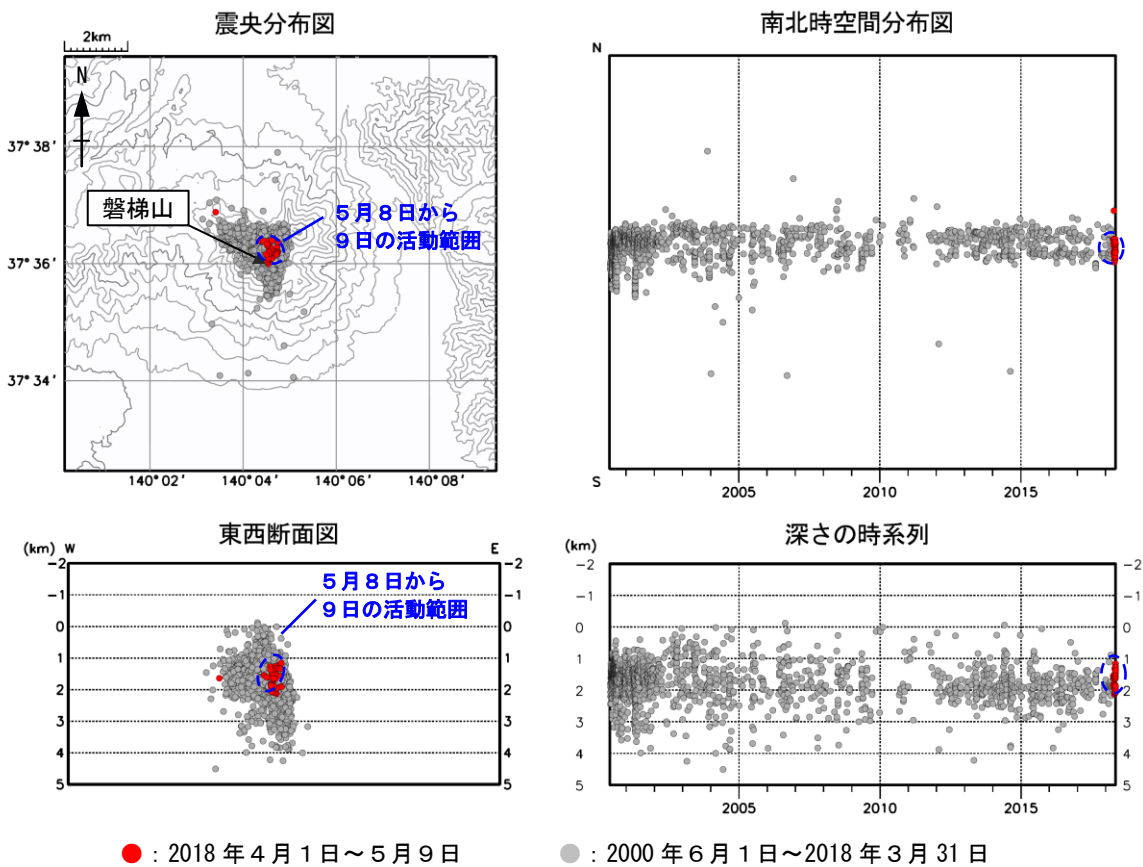


図6 磐梯山 地震活動図（2000年6月～2018年5月9日）  
 ・5月8日から9日の活動範囲は、山頂付近の深さ1 km から2 km 付近（青破線）と推定されます。  
 ・2002年4月1日から震源計算方法を変更しました。



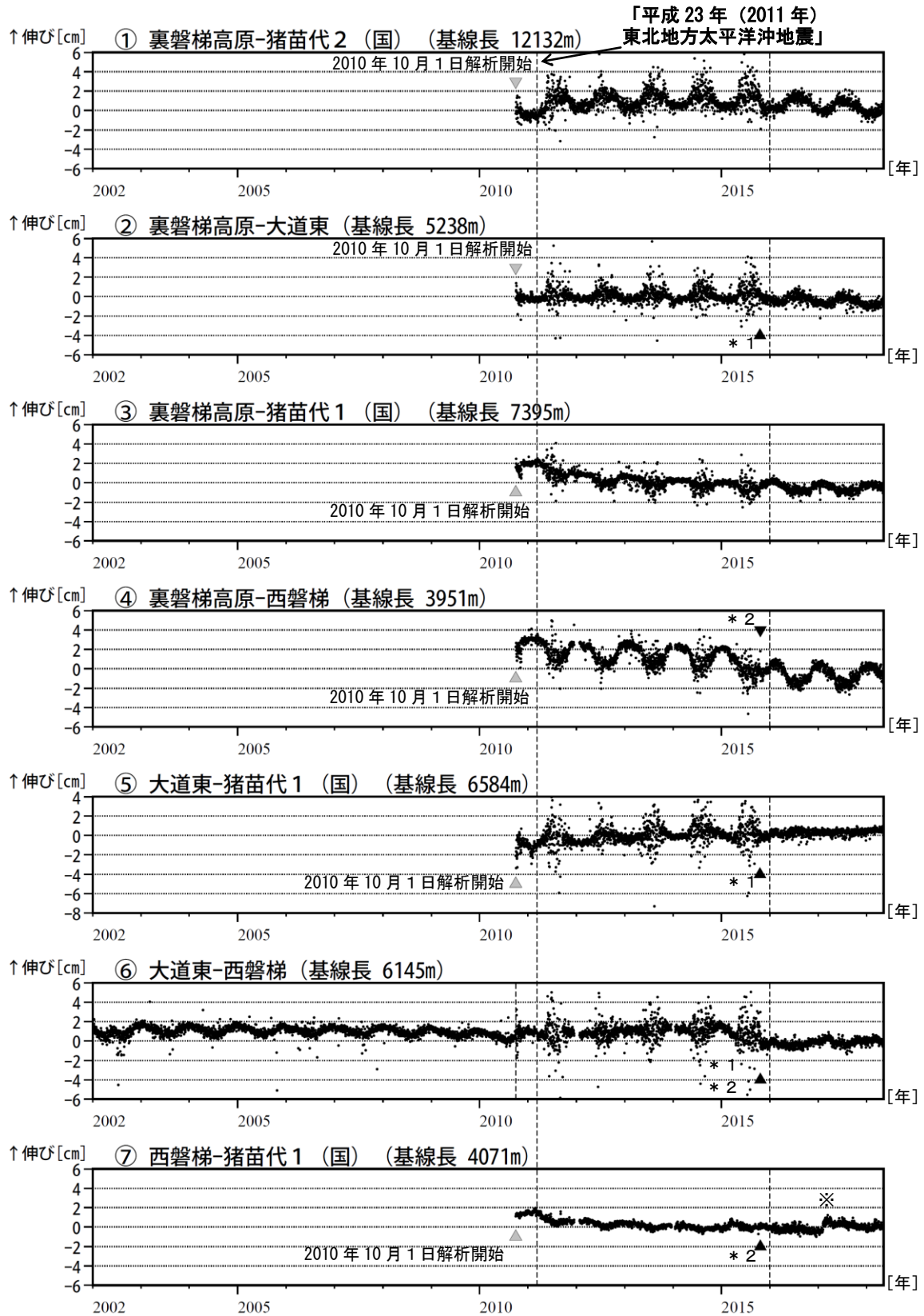


図 7 磐梯山 GNSS<sup>2)</sup> 基線長変化図 (2002 年 1 月～2018 年 5 月 7 日)

- ・ 2010 年 10 月及び 2016 年 1 月に、解析方法を変更しています。
  - ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
  - ・ ①～⑦は図 9 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
  - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
  - ・ (国) は国土地理院の観測点を示します。
    - \* 1 : 大道東観測点の機器更新及び移設を行いました。
    - \* 2 : 西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
  - ※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- 2) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

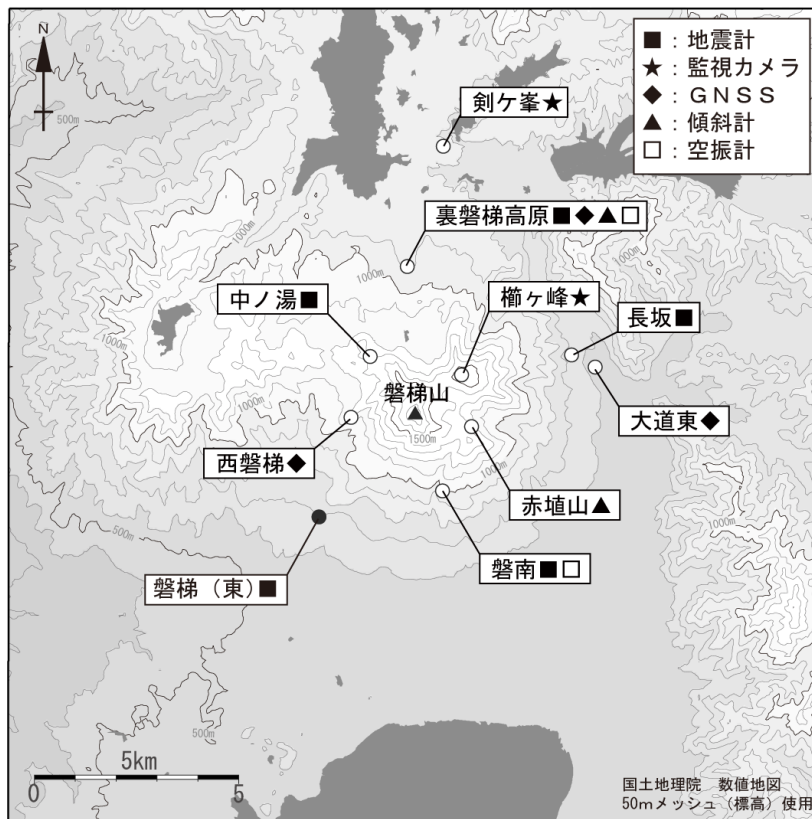


図8 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学

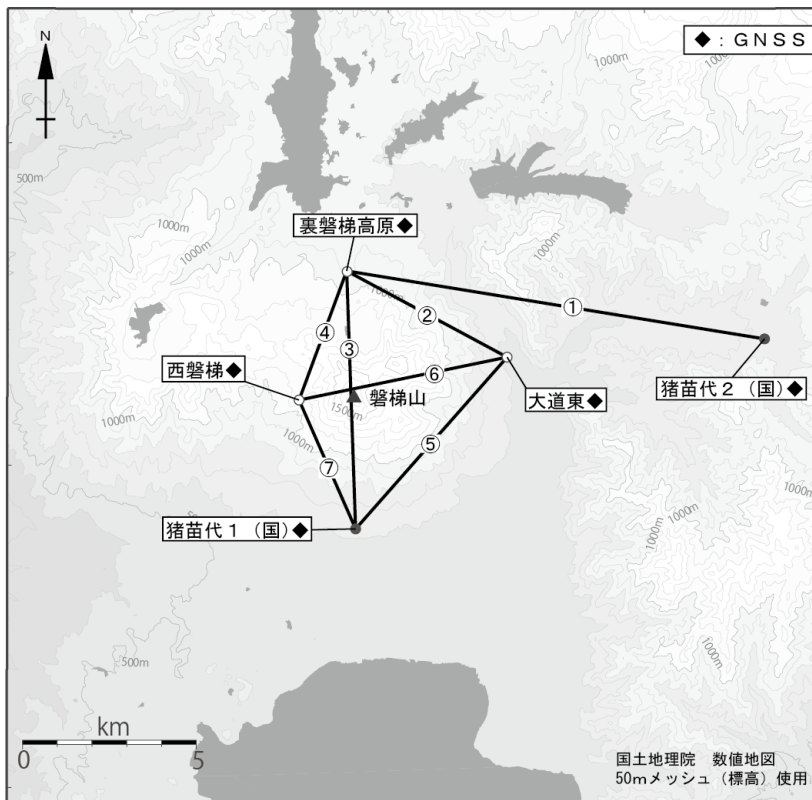


図9 磐梯山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院